

会 議 録

会 議 名	第28期小金井市公民館運営審議会第9回審議会		
事 務 局	公民館		
開 催 日 時	平成18年6月23日(金)午後2時30分から午後4時30分		
開 催 場 所	公民館本館 学習室A・B		
出 席 者	委 員	島田委員長 田頭副委員長 大橋委員 長田委員 今川委員 神島委員 熊谷委員 竹内委員 道城委員	
	そ の 他		
	事 務 局	中嶋館長 鉄谷庶務係長 中福事業係長 上島主査 長堀主査 葛城主査 渡辺社会教育主事	
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 第19期公民館企画実行委員候補者募集の結果について</p> <p>(2) 第44回公民館研究大会について</p> <p>(3) 公共施設予約システムについて</p> <p>(4) その他</p> <p>2 審議事項</p> <p>(1) 各館事業の計画・報告について</p> <p>(2) 公民館の基本方針づくりについて</p> <p>(3) その他</p> <p>3 配布資料</p> <p>(1) 各館事業の計画・報告</p>		

会 議 結 果

1 報告事項

(1) 第19期公民館企画実行委員候補者募集の結果について

中嶋館長 小金井市公民館企画実行委員選出要綱により成人教育・文化活動部門の委員数は、各館6人以内、5館で30人以内となっています。

第19期の委員候補者の募集については、各種団体からの推薦、並びに市民公募委員の募集を市報5月15日号に掲載し、6月14日午後5時に締め切りました。6月20日(火)午後4時から、候補者調整会を実施し、20人の立候補・推薦届出者を決定しました。

本館6人(女性4人 男性2人) 新人6人(推薦1人 立候補5人)、本町分館2人(女性1人 男性1人) 2期2人(立候補2人)、貫井南分館6人(女性2人 男性4人) 2期4人 新人2人(推薦1人 立候補5人)、東分館0人、緑分館6人(女性2人 男性4人) 新人6人(団体推薦1人 立候補5人)

男女比女性9人(45%) 男性11人(55%)、平均年齢63歳、最年長(女性)75歳 最年少(女性)39歳。新人14人(70%) 再任2期6人(30%)

30人充足できなかった理由としては、3期目以外の現職委員は一身上の都合があり、団体・サークルへの呼びかけや、申込書類配付・送付など働きかけをしてきましたが、このような結果になりました。本町分館と東分館については追加募集を行いたいと思います。

追加募集は、市報8月1日号掲載。8月18日(金)午後5時に立候補・推薦届締切。8月11日(金)午後3時から説明会、8月21日(月)午後3時から調整会、8月30日(水)公民館運営審議会に報告。

8月31日(木)第9回教育委員会定例会に議案提出、9月1日(金)午前9時から委嘱状伝達。

既に選出されている20名については7月11日(火)教育委員会第7回定例会に議案提出し、7月21日(金)委嘱状伝達を行います。

島田委員長 19期の企画実行委員については本町分館が6名枠のところ2名、東分館が0名で異例の事態と思います。

竹内委員 4月18日に企画実行委員会を傍聴して感想を述べたときにも人材の確保が難しくなると言いましたが、今回の結果を見て原因は何だと捉えていますか。

中嶋館長 先日公民館の団体登録をするに当たり、説明会等で団体の代表者や連絡責任者と話をしました。代表者を選ぶのが非常に難しい時代になり、いくつもの代表をしなければならないという声がありました。今後公民館としても内容を説明しながら働きかけて行きたいと思います。

竹内委員 今の制度の問題ではなく、忙しい方が多くてなかなか公民館を支える役につくことができなくなった、という分析ですね。

中嶋館長 非常に多忙だと言う声が多数ありました。押して無理にという訳には

いきませんでした。

島田委員長 企画実行委員の会議を傍聴したりして、関係を深める努力をして来た訳ですし、公民館大会の準備段階でも小金井の企画実行委員制度は非常に注目を浴びていて全体会でも紹介する報告があるとか、分科会によっては事例報告をまとめるとか関心が高まっている一方で、この事態はショッキングな事件なので感じている点や再募集の進め方について意見があれば出してください。

大橋委員 応募されて来た方のそれまでの公民館との関わり方はどうですか。

中嶋館長 団体サークルで活動されている方もいます。市報等を見られて企画実行委員になってみたいという方もいます。中には他市で公運審や町づくりなどの地域的な課題にとりくまれた方もいます。

大橋委員 内訳がわかるとどうしてかという事も分かりますか。

全く関係ない人が応募してくることはないのですか。

中嶋館長 その為にも6月4日の説明会、6月20日の調整会でも改めて公民館企画実行委員制度の生い立ちからどういうことをやるのか、報酬規程や内訳についてよく理解してから応募していただくよう説明しました。なおかつ6月20日には各館ごとにグループ分けして、各館主査がこういう活動をしているという説明をして質疑応答を受けて納得していただいてから、提出していただいた結果です。

竹内委員 30人予定のところ20人しか応募がなかったということですね。

しかも、再任された方は30人中6人で、これは市民参加条例では3期までしかできないのですか。

中嶋館長 3期までです。

竹内委員 3期で退任せざるを得ない人は何人ぐらいいましたか。

中嶋館長 3期で充分です。または1期中休みをして検討するというお話もあります。皆さん3期というのは一つの節目と心得ておられますし、3期やれたという意識があります。そして、次の方に託されているということです。

竹内委員 企画実行委員制度というのは、小金井の公民館のすばらしい制度だと理解していましたが、現実を見ると制度疲労というか、時代の流れに合わせてどういう形にしたら良いのかを考えてみる必要があるのかもしれませんね。大勢来てその中からやっと30人選んだのですよ、という形になれば一番良いのですが。

田頭副委員長 その中には、現実行委員さんたちが働きかけをして引き継ぐ形で応募した方たちは、どのくらいの割合ですか。

中嶋館長 いても少数です。

田頭副委員長 実行委員って何ですか、という方が多いのですか。

中福係長 こんなに少なかったのは初めてです。

今までは、調整会で誰かが降りなければいけないという状況でした。3期終わった方は後輩に引き継ぐ、または6人のうち半分は残って半分

は新たな人に引き継いできた訳です。今回は、辞める方が次の方を紹介してという事が少なくなりました。サークル内で先輩が後輩を育てていくという事がなくなったように見受けられます。

田頭副委員長 義務ではないが、意味のあることで、大切なことなのだという事を周辺の方に伝える事で自然と次の方につながる流れがあったと理解していましたので、そこがなくなってしまったのは残念なことですし、多分何か原因があるのだろうと思います。ただ忙しいだけではないという気がします。

島田委員長 年々少なくなってきたのか、今回の事態はかなり異常なのか。

中福係長 2年ごとの任期ですが、今回、減ったという印象を受けます。

島田委員長 6名中0という東分館にこの間見学に行きました。

非常に企画実行委員の皆さん方活発で色々な事業に良く取り組んでおられました。そして、引き継ぎが大事だという事を言っておられたので、まさか0だということは予想だにできなかった訳です。特別な事情があるとすれば、館長の責任で事態が改善される手順が必要だし、単に時代の流れで致し方ないというだけで採用しないということであれば、時代の流れだったら出てこないということになりますから。その点で工夫・努力が必要になるのではないかと強く思うのですが。

中福係長 説明会を実施して、11名来られました。現役でない方は7名来りましたが、実際応募された方は3名です。残りの方に電話をしました。「検討しています」ということでしたが、検討していますという事はダメだという事なのです。そういう方が多かったということです。

前は、現役も入って、説明会に21人来ました。今回は大幅に減っています。そこに何か変化があると思います。こちらの説明を急に省いたという事はありません。前回から特に細かく説明するように配慮してきました。

熊谷委員 募集の仕方ですが、地区別に5館があつて、地区別に企画実行委員を募集しますというポスターなどは各館に貼っていないのですか。

中福係長 チラシ・ポスターで募集をしました。市報にも掲載しました。

熊谷委員 それでこの状況ですか。今まで企画実行委員は女性が圧倒的に多かったのに、今回は女性が9人で男性が11人で逆転していますね。本来なら女性が半数以上いておかしくないのではないのかと思います。不思議な現象だと思いました。

中嶋館長 団体サークルの代表の方と直接お話をすると、辞めたいけれど引き受けざるを得ないといった話を聞くことが増えてきました。

市報に載せたり各館にポスターを貼ったり、チラシを置いたり団体サークルには直接送付したりしています。サークル内で次の方を育てていく力が弱くなっているのかと思います。弱くなっているのが時代的背景だとすると、その点も踏まえながら追加募集をしていきたいと思えます。

島田委員長	状況をきちんと分析しなければいけないと思います。再募集をされる際にどういう風な呼びかけや趣旨の説明や雰囲気をも高めるかということが大事だと思います。定員に満たないから再募集、と単純に考えていないと思いますが、この間の公民館大会の準備の状況なども含めて、小金井市公民館への期待が高まっていますし皆さんのお力をぜひ公民館の活動の発展に貸していただきたい、という熱意を込めて呼びかけていただいて再募集が成功するようにしないといけないと思います。
(2) 第44回公民館研究大会について	
中嶋館長	第3回企画委員会は、6月15日(木)午後1時30分から参加職員23人、委員部会(公運審)13人、役員会委員1人、小金井市委員6人の合計44人参加でした。 座長は、高橋幸夫さん(昭島市公民館) 副座長は、棟方貞夫さん(国分寺市立本多公民館) 開催要項(案)の検討、課題別集会の進捗状況等について報告がありました。
上島主査	補足をします。開催要項案について検討しました。 謝礼の支払い基準についても質問が出ましたが、従来と同じということで決まりました。課題別集会については、各集会で検討が進んでいます。次回第4回は7月20日(木)午後1時30分からとなります。 昼食については、各自用意していただくことになりました。そのためにコンビニエンスストア等の案内を考えています。
中福係長	人数を増やすことについて役員会で了承を得て補強策を講じてきました。その結果、都公連に参加している市の公運審委員を動員する事が出来、前回よりおよそ8名程度増えています。人数は前回の稲城市の企画委員会の規模よりもおよそ倍くらいになっていることを報告します。
島田委員長	組織的な準備状況について話がありましたが、内容的な面についてもあるかと思うので、当日参加された委員の方からも補足などありましたらお願いします。
神島委員	第3回企画委員会の中では要望や意見が出されたとの事ですが、その中で未定のものについては来週早々に開かれる役員会の中で議題になる。役員会の中で未定のもの決定をみたものとかありますか。
中嶋館長	6月29日に開かれますのでこれからです。
神島委員	その中に受付の時間等についてはありますか。
中嶋館長	当初の予定通り、9時受付開始で9時30分からと説明する予定です。
神島委員	私個人が要望として出したと思うんですが、弁当とか名札は省略しますので、合理的に15分程度で終わらせて分科会を早く始めて小金井らしさのある企画実行委員制度のPRをできないものかということです。
中嶋館長	全体会の中で企画実行委員制度の紹介を、1,2人の体験談を含めて

する予定です。

神島委員 その程度ではなくて、各分科会で事例報告を兼ねて時間を取ると良いかと思います。

中嶋館長 8つの課題別集会はそれぞれの課題で集会を行います。助言者の概要説明から入って、事例報告者の報告、それに対する質疑応答、取りまとめとかなりの時間を要します。課題別集会に分かれた後におおの企画実行委員制度の紹介をするのは困難ですので、全体会で、要項に記載した方法でいきたいと思います。

島田委員長 企画実行委員については、非常に関心が高いという事を先程中福係長から聞きましたので分科会においては改めて企画実行委員制度の制度的な説明ではなく、実際にそういう制度があるからこういう活動が出来たのだという具体的な事例報告がなされる雰囲気があるのではないかと思います。

中福係長 そういう要望が出ている分科会もありますが、先程館長が説明しましたように、小金井市の企画実行委員制度経験者の事例報告については全体会の中でやるということで確認していただきたいと思っています。

事例報告の希望としては実際に分科会で出ています。

島田委員長 討議の中で、ある事例が報告され、質疑がなされて終わりではなく、そのような事例を生かして各地域の公民館がどういう活動を充実させていったらいいだろうかという討議のプロセスが功を奏しているのだろうと思います。企画実行委員制度に限らず、自主講座もあるし市民参加が多様に行われているという事を分科会で発言しようではないか、こういう雰囲気を高めて欲しいと思います。

中福係長 各分科会の中で議論の回数を重ねているところですから、その議論を待ってだと思えます。会場に参加する企画実行委員および委員経験者から発言が多く出るものと思っています。ただ、小金井市の企画実行委員を取上げるキーワード等は、8つに含まれていませんので、各分科会で取上げる事にはなっていません。

神島委員 体験談を全体会ではなく分科会でできないかということです。

大橋委員 私は全体会議で充分だと思います。各分科会は、それぞれテーマがある訳ですから、そこに企画実行委員の話を入れていくとおかしくなると思えます。

神島委員 そのテーマごとに報告を行って欲しい。

大橋委員 それは分科会ごとに決めれば良いと思います。

神島委員 事務局はそう言っていますが、それを公運審として広げようということです。そのことが企画実行委員の応募が集まらない理由かもしれない。黙っているとこの制度が破綻してしまうかもしれない。

大橋委員 それを都公連の場で論じる必要はないのではないのでしょうか。

神島委員 それを論じようというのではありません。次元が全く違います。そのテーマに沿ったことを事例報告として出そうということです。

大橋委員	それは課題別集会にお任せしたらいいのです。加盟各市の公民館が集まっているのですから。
神島委員	テーマに沿ってやって欲しいという事は任せます。それはわかります。しかしもう少し小金井の制度自体をPRしようではないかという事です。
島田委員長	全体会が討議的な要素を持っていれば、学びあう事も可能ですが、今回はこういう制度を小金井ではやっていますという紹介で終わってしまう。
大橋委員	それは小金井から課題別集会に出た人が、委員長が言ったように発言しましょうということで、事例報告等そういったことをここで決めなくてもいいと思います。
島田委員長	そういう発言を各分科会で盛り上げるのはいい事だと思います。企画実行委員だけでなく、国際交流の経験、自主講座の経験、市民参加で中身を盛り上げていく努力を機会を見ては報告していくといいと思います。
上島主査	大橋委員が江戸野菜について、小金井の一つの事例として取り上げたいという事で、企画実行委員の方と話をし、江戸野菜の畑に来ていただいたりする事になっています。貫井南分館として広く知ってもらえます。
島田委員長	私の出席している第8部会、高齢者の学びですが、第一に確認したのは、高齢者自身がどんな要望や希望や取り組みをしているかを話し合うこういう風に市民参加でいこうということが決まりました。東分館企画実行委員の猪俣さんが積極的に発言して、他市の公民館からの出席者が小金井市の企画実行委員方式というのは公民館の本来の姿であるからとても関心をひかれるので事例報告をして欲しい、と要望がありました。制度説明ではなくて高齢者の事業に市民参加でどのように取り組んだかを話してもらいたいと思っています。先程神島委員からも言われたように各分科会で是非小金井での事例を、市民参加を軸にやっているのだという報告をするということの確認をここですれば、公運審も大会成功に協力できるのではないかと思います。
大橋委員	上島主査が言ったように、第5分科会で、既に企画実行委員と江戸野菜についてやることは決定しています。事例として企画実行委員がでてきます。自然にそうやって出てくることはいいことです。
島田委員長	制度的な説明だけではいきいきとしてこないですから。 その他に準備段階でいくつか大事な確認もされてきたかと思います。 まず、大会趣旨が非常に簡潔にまとめられていたが、これは市民がちらりと見ただけでは距離を感じる、もう少し文言に工夫がいるのではないかと思います。例えば、社会教育法の改正、指定管理者制度等々が挙げられているが、この語だけを出すのではなくて、公民館の公的な意味が後退してしまうような法改正や管理制度についても議論を深め

よう、という風にわかり易い説明を少し入れる工夫がないとお役所的な文章になるから変えていく必要がある。それから、公民館がなかなか厳しい状況におかれている中ではあるけれども、団塊の世代の問題もある、子どもをめぐる危機的な状況も一杯ある、この中で地域の人たちが手を取り合って新しい地域づくりを目指す公民館活動の意義は益々重要なものになっている、という事を短時間でもいいので挨拶の中で取り入れて欲しいという要望がありました。先程の予定ですと都公連の会長が挨拶の中で入れていくのがいいのか、主催地小金井の公民館長が情熱込めて語るのがいいか工夫をして欲しいという話でしたが、それはまだ結論をみていませんか。

中 福 係 長 それは後者になりました。

中 嶋 館 長 主催事務局から話したいと思います。

課題別集会は、8つのキーワードを基に現在5人から7人の委員が鋭意話し合いをしています。その中で江戸野菜のように小金井の事例を発表しようというケースも出てきています。そして、中には小金井の企画実行委員もいれば、小金井の公運審委員もいます。課題別集会の委員は17市から来て、課題別集會を立派に成功させてくれると思います。主体的に、自由に作ってもらいたいと思います。それがこの研究大会の、自由な発想で自由な討議で忌憚なく皆さんが力をあわせて行くことだと思います。

長 田 委 員 趣旨の中に「三多摩地区」という言葉がありましたが、もう古いのではないのでしょうか。東京都公民館研究大会と言いながら多摩地区の話になって来ています。それが非常に不思議に思います。一般市民が例えば行ってみようという事で、読んだ時にもそう思うのではないのかと思います。「三多摩地区」という古い言葉はやめたほうがいいのではないかと思います。

中 福 係 長 参考にさせていただきます。事実として、三多摩にしか公民館がないので活動の中心は三多摩だったということです。確かに都公連は開かれた都公連を目指して未加盟を加盟にするという運動方針もたてていますので、閉鎖的ではない開かれたものを目指していますので、今言われた事はそういう意味で捉えさせていただきたいと思います。

熊 谷 委 員 確かに「三多摩地区」はもう古くて今は多摩地区ですね。三多摩とは北多摩、南多摩、西多摩です。今では多摩地区で一つのブロックとして通っています。

上 島 主 査 多摩地区で提案するようにします。

島田委員長 公民館が残っているから多摩地区で取りくむというだけではなく、公民館的な活動というのは23区にも広げていく良い文化活動ですね。東京都公民館研究大会ということで多摩地区以外の人でも大いに参加してもらいたいという姿勢があっているのではないのか。例えば葛飾で子どもの居場所を作って、地域の中でのびのびと生活させようという取り組

みをやっています。そういう事例も、公民館大会の子どもの問題を取り上げる部会では必ず出てくることだと思います。その時に葛飾の経験を聞いたり、多摩の経験を他の地区で活かしてもらったりと、都公連とはもっと視野を広く持っていていいのではないかと思います。

中福係長 その通りです。それから全く別の観点ですが、これまで都公連の大会では企画実行委員が「自分はいったいなんだろう」と感じてしまう部分がありました。公運審でもない、職員でもない。構成は、職員・公運審・館長と3者しかありませんでした。今回は枠を広げて改正し、企画実行委員に道を開いたわけです。ですから新たに選ばれる方は、それを当たり前にとらえる時代が来る訳です。違った観点からですけどそういう風に努力してきました。

神島委員 助言者や事例発表者と企画実行委員が弁当を食べながら話ができる方がいいかと思います。

中嶋館長 助言者と事例発表者には昼食を用意しますが、一つのアイデアとしていいと思います。

中福係長 今までは希望を聞いて全部用意してきました。打合せの時間が短くなりますので、今回はスタッフについては部分的に用意します。

中嶋館長 前回の課題別集会の企画委員では、課題別集会ごとに昼食をとりました。企画委員全員での昼食ではありません。

上履きとそれを入れる袋とお弁当は持参でとお願いする予定です。

島田委員長 運営委員が要領よく手配をして、お昼休みに午前中の討議のまとめと午後の進め方について相談をしますから集まって欲しいと。そこに助言者も集まってくるという事でよいのではないのでしょうか。

熊谷委員 教室を2つ使う事は可能でしょうか。課題別集会でグループに分かれて討議しようという話が出ています。

中嶋館長 特別教室は、11あります。調整が出来ない場合は、公民館本館などを使う予定です。広さは50～60人くらい入ります。

(3) 公共施設予約システムについて

中嶋館長 9月分を6月20日から末日まで抽選申し込み中です。メンテナンス作業が入ることがありますが、特に問題はないとのこと。

(4) その他

ア 市民がつくる自主講座について

中福係長 公民館の枠を打ち破って個人や団体でも企画をし、運営をする。公民館では今まで取上げなかったようなものにまで広げた講座で、今年で4回目となります。広く公民館を活用しながら学習をしていこうと言う趣旨です。「公共性のある地域や生活の課題について、市民自身の手で講座を企画運営し、これにより市民の中に自主的な学習意欲を喚起し、学習活動を保障します。また、市民相互が社会還元を目指すものとしま

す。」というのが趣旨になります。条件については細かくたくさん出ていますが、社会教育法で定められた通りの禁止事項になっています。1年目は参加者が多くて調整会を開きながらやってきました。去年は定員丁度の応募で、予算は今年2割カットを受けました。職員は事前に相談を受けて市民と共同して作っていくということです。今までは時間的余裕がありましたのでアンケートをとって改善を図れるところは図ってきました。今年も既に問合せがきています。この3年間は暫定予算でしたので始まりがとても遅かった。実施が半年ぐらいつれてきました。7月1日の市報に掲載し、8月から要項を各公民館に置き、ポスターを貼ります。8月一杯募集して締め切り、内容を検討の上決定していきたいと思えます。昨年と同様の中身で募集しますが、自主的な学習の保障、社会還元を付け加えています。昨年の実績について7団体が申し込み、773人が受講しました。

去年は神島委員が応募されましたが、大変だったようです。

島田委員長
中福係長

大変なのを覚悟の上で応募する。大事な事だと思います。

余り打合せはしませんでした。用意だけはさせていただきました。

ウ その他

中嶋館長

第47回関東甲信越静公民館研究大会参加申込及び平成18年度東京都公民館連絡協議会委員部会全体会について、参加の確認をさせていただきます。委員部会は、7月9日(日)13時30分からまちだ中央公民館で、関東甲信越静につきましては本日までに回答する必要があります。2名予算措置をしていますのでこの席でお決めください。町田については人数制限がありませんのでぜひご参加ください。どちらも私は参加します。交通費は予算措置されていますが、宿泊費はありません。

関ブロ出席者：神島委員、今川委員(24日)、田頭副委員長(25日)

島田委員長

公民館運営審議会委員と社会教育委員と図書館協議会委員の三者協議は近日中にありますか。

中嶋館長

ありません。1年に1回です。

島田委員長

公民館の基本計画づくりを進める中で、小金井市の教育文化事業全体として進めるために図書館や公民館がどういう風に手をつないでいったらいいかという事が当然出てくると思えます。機会がありましたら早めにお知らせください。

2 審議事項

(1) 各館事業の計画・報告について

島田委員長

先月から今月に各館まつりはありましたか。

中福係長

緑分館が終わったところです。

島田委員長 この間企画実行委員会などを傍聴された委員はいますか。

田頭副委員長 東分館に行きました。とても熱心で、企画実行委員企画の講座の展望などの話がありました。それを引き継いでいくと思っていました。男女共同参画講座も長堀主査から提案があり、それに対して熱心にカルチャースクールとの違いを出していくような公民館での学びということで非常に深い議論が活発に自由に出ていると感じました。裁判員制度について講師などとの交渉も含めてこれからも続けていくという感じでした。ですから今回は驚きました。壁新聞で紹介というコーナーで、企画実行委員の役割や講座の紹介をしていました。イラストなどもわかりやすく、公民館で学んだことが地域に広がっていくという、自主講座の目的にあったような視点の広がりもあり素晴らしく刺激があって、やる気も出てくるのではないかと思います。

今川委員 本館の企画実行委員会を傍聴しました。大部分の委員が一度に任期が終わって変わるので、傍聴している側としては半分とか三分の一の委員がうまく交代できるようにならなかったのかと思います。今年公運審になって初めて企画実行委員会の傍聴をしましたので以前の流れを理解していませんが、現在の企画実行委員は和気あいあいとしていて意見が活発に飛び交っていて、そのいい雰囲気が一変してしまう訳です。

中福係長が「皆さんからぜひ次の候補を推薦してほしい」と言っていますが、やはり反応は鈍かったです。今回選ばれる方もそれぞれ任期は3期ですので、また2年後、6年後に同じ問題が起きるかもしれません。そうした場合に全部が変わるのではなくうまく変われる方法について工夫できないのかと思いながら傍聴していました。

田頭副委員長 時間的なことを考えると、退職した方や時間的な余裕がある方がやりやすいというのは確かです。私たちが子供たちを連れて講座に参加していたような時代は子連れの人はず無理と言われていました。道城委員のように小・中学生ぐらいの子供を持った方たちにとって、公民館の委員になるということは身近な事として感じられますか。

道城委員 実際には非常に興味がある人もいますし、機会があれば利用したいという人もいますが、そういう情報が伝わってこないです。お役所的な言葉よりもより身近な言葉でアピールしてくれないと、開催されていることを知らずに終わってしまう。参加も出来なければそういう活動をしていることを知らないの、それを企画したり、努力している人がたくさんいるのに関わらず知ることが出来ないでいる。以前は保育つきの講座が少なかったので子連れになると参加が難しいということがありましたが、生涯学習課の講座などでは必ず保育がつくように設定されました。どういう認識を公民館なり公運審に持っているか身近な人の話を聞くと、利用している団体の人は別として個々で参加するレベルの人には全然見えないらしいです。中に入ってはじめて情報誌やチラシが張り出されているので通り過ぎただけではわからない。よっぽど興味があつて

認識を持っている人でないと見過ごしてしまうことが多いです。細かい内容が書いてあるものよりも、見出しや呼びかけが大きくシンプルに書いてあるものの方が惹きつけられたりわかりやすいと思います。難しく書いたものは敬遠されがちで、伝わりにくいです。子供を持っているお母さんたちも噛み砕いて説明するとわかってくれます。凝縮して全部情報を入れてしまおうとすると用語が難しくなったりして、選ばれた人しか利用してはいけないように捉えてしまっているようです。実際そうではないのだということは伝えてはいますが、企画する側は自分たちがわかっているのに、それを当然と思って話が流れていくのでしょうか、わからない人に持っていった時に理解してもらえません。参加してみれば理解できることでも、最初の段階で引いてしまっているようです。

島田委員長

次の課題と重なってしまいましたが、議論は切らないで進めたいと思います。今日出されている計画や報告についても、大勢参加している講座も元々関心の高かった人に限定されているのではないかと、もっともっと多くの人を惹きつけられる工夫はどうしたらいいのかということが問題になってきます。前々から問題になっているリピーターで埋まっているのではないかと批判や分析も出てきます。

今川委員

職員にお願いしたいのですが、私は日本語教室の責任者をしていません。自分が公運審委員なので余計に関心が高いのかもしれませんが、教室がある日は早めに来てチラシなどを全部見て生徒やスタッフに薦めたいものを貰ってきて、説明をして配布します。そこから行ってみたいとか興味が生まれます。私のように普通の人より少し公民館に興味を持ってくれる人が多ければ、そのグループでチラシを配布して目を通してもらえると思います。ですからグループのリーダーのような人に働きかけはできないでしょうか。例えばチラシをグループの人に手渡しするだけでも変わってくるのではないのでしょうか。私のグループの人は外国の人ですので情報を求めているので喜んでくれるのかもしれませんが、やっぱり全然違います。ここにあるリーフレットなどは非常に助かります。

島田委員長

原則的なことを考えると同時にそれを実際に生かすのはどうしたらいいかということです。手渡しということは、個人的なコミュニケーションが作ることで、好きな人はもって行きなさいというのはまったく違います。市民掲示板には、大橋委員のやってらっしゃる NPO シニア SOHO 小金井の「定年後の人生設計」とか、小金井雑学大学、アジアクッキング、中国語を楽しみませんか、絵画サークルオーリーブグリーン、わんぱくランド、野川ママの会等掲示され、とてもいいものだと思います。どれだけ親しみやすく呼びかけて門戸を広げていくかという工夫がされていかないといけないと思います。大橋委員、掲示の反応はどうですか。

大橋委員

前回、何をみて来たのかというアンケートをとりましたが、以外に少

なかったのが市報です。私は市報を見てみんな来るのかと思っていましたが、チラシが一番多かったです。

島田委員長 チラシはどういう場で配ったのですか。

大橋委員 マンションにポスターを貼り、駅前でチラシを配りました。顔を見て参加しそうな年齢層に配りました。チラシは案外効果があります。

田頭副委員長 定年後の人生設計という講座に対しては駅前のチラシを配ったのですか。

大橋委員 男性は10人に1人くらいしか受け取りません。みんな疲れた顔をして帰ってきます。女性の方は渡すとほぼ全員受け取り、反応がありますが、男性はほとんどありません。当然公民館にも関心がありません。男性をいかにこちらに向けるとするのが難しいと思います。疲れたままでは定年後も出てきません。それを引っ張り出す意味でこういった講座をやっているのですが、自分では出てきませんのでこちらから行くしかありません。

島田委員長 市民掲示板、その他の反応はいかがですか。

田頭副委員長 プレイパークの場合は全校に配布しています。その効果が一番です。若い世代は、子供たちが小さいのでなかなか外に出られませんので市報から情報を得る方が多いです。こまめにチェックしていますから、そこに魅力的な、ソフトなお誘いの文言が載っていると自分も参加していいのだ、と思って参加しますから。

島田委員長 他の方は市報はいかがですか。

道城委員 私の周りでは、市報に興味があってみている人もいますが、回覧は流し読みが多いです。

島田委員長 アピール性の強い工夫をするということと、内容的なことも大事になりますね。本町分館の「思春期応援講座」というのはどんなものですか。

中福係長 本町分館長が欠席のため、中身はわかりませんがこの講座を市報で見つけた多摩市の職員がこれについて研究大会で事例発表をすることができるようです。

大橋委員 市民掲示板はとてもよい制度です。近隣市ではこれに相当する制度はありません。

(2) 公民館の基本方針づくりについて

島田委員長 前回課題となっていたレポートについて、道城委員から発表していただきたいと思います。

道城委員 身近な人や周囲の声をもとに、企画する側からではなく、受ける側からみた魅力的な企画についてのレポートです。企画の内容に関しては企画する側が練って作っているのでその点に関しての問題はないです。私自身が感じることや子供たちや親からみて忙しい中をぬってでも行きたいと思わせるためには、内容云々よりもそれを知らせる必要があります。そこにポイントを置いて書きました。まず目を引き興味を持たせる

ことが前提で、それが達成されていないといい企画があっても参加が出来ない。いい内容のものを提示したのに参加が少なくて企画倒れに近い残念な厳しい結果が出てしまう。まず目を留めてもらって興味を持ってもらうことを第一段階とする。そして都合がつけば来てくれる。ポスターも今は便利にすぐ出来てしまいますが、そこに一手間かけて、先程今川委員が言ったように手渡しするとか、手作り感があるものでアプローチすると逆に新鮮に受け止めてもらえる。市報にただ載せるよりも知っている人に頼まれると断れないという訳ではないけれど、一応目を通すし説明を求めることも出来ます。もともと施設がどこも古いので明るいイメージがなく、「暗い」という人もいて、それはライトアップしたらという案もありましたが、基本的にはそういうのも目を引くものがあれば施設に興味を持つこともありますので。チラシを手渡しするにしても該当する人がいる場所を選ぶ。忙しいので出向いていくのも大変だと思いますが、出入りする人に頼むなど、可能であればそういうアプローチをしていくことが必要だと思います。私の場合はチラシなどをそのまま渡すのではなく、自分の言葉やイラストなど紹介文を添えて一緒に渡します。一手間をつけると有効です。あとは口コミが増えていきます。各館で情報を流す決まりはありますか。

中嶋館長 趣旨が社会教育施設に置くことができるものならば置いて、「ご自由にお取りください」、ということになります。

田頭副委員長 講座の前後に次回どういう講座があるということをインフォメーションしている職員もいます。それも有効だと思います。公民館の入り口だけでなくその講座の入り口にもチラシなどを用意しておくことも大事だと思います。

今川委員 1階のロビーをもう少し公民館が活用することは出来ませんか。

中嶋館長 この施設は福社会館です。社会教育施設としてではなく福祉関係の補助金で作られています。1階のロビーはどなたも使えるということになっていますが、管理は社会福祉協議会がしています。

今川委員 リーフレットやチラシを1階にも置くことはどうですか。

中嶋館長 1階は展示をしますので壁面を使うことが出来ませんし、スペースは限られています。

大橋委員 入ってきても公民館がどこかわからないですし、チラシは1階に置かないと効果がありません。

島田委員長 工夫が出来るとと思います。「いらっしやい、公民館です。3階にお寄りください」という縦長の1枚だけでも貼れると思います。

中嶋館長 検討させていただきます。

島田委員長 公民館ではロビーの機能は死命を制するぐらい重要な機能です。たまり場立ち寄り場です。公民館で工夫された施設の場合誰もが入りやすく、喫茶コーナーがあり新聞雑誌が無料で見られる。いろいろなグループの作品が展示されていてイベントの案内もあるから行こうかという

気になる。入りにくいという人ももちろんいるけれどロビーは基本です。私たちはやや硬く公民館の基本方針について話し合っていますが、公民館をみんなのものに、というテーマを考えた時にどんなことが思い浮かぶかということを持ち寄ってみませんか。道城委員の意見に説得力があるのはいろんな人に聞いてみたからです。大橋委員のような活動は別として、我々はあるべき姿は語るけれど、日常の暮らしの中で「公民館に行ったことがありますか」とか「行ってみませんか」という呼びかけはしていません。公民館をみんなのものに、ということになれば福祉の問題、健康の問題や子育ての問題などを、重要な課題に取り上げることだという言い方も成り立ちますし、通りすがりに目を引くような工夫を凝らすべきだ、ということも「公民館をみんなのものに」ということの一つです。働きかけ、呼びかけする仲間を増やそうでないかということもそうです。いろんな意見を自由に出していただきたい。

商工会で事業をする時、宣伝はお店にチラシを配るのですか。

熊谷委員 大きなものはポスターを作って各商店の店頭貼って、周知徹底します。チラシは用意しません。

大橋委員 公民館の問題の中に商店街の問題が出てきません。商店街は人が集まる大事な場所です。商店街は大きな問題を抱えていましてそれは地場産業とか環境とか子育てとか一緒に地域の問題になると思います。

島田委員長 商店街は地場産業の中に入れてしまいました。閉まっているお店を保育コーナーとして一時期子供を預かってくれれば、安心して出所のわかる食べ物を売っている地元の商店街にお母さんたちは来ますよ、という話をしました。商工会というのは大事です。

熊谷委員 実際、京王通りの空き店舗に一店作りました。テーブルと椅子、お湯ぐらい出るようし、目的は買い物のついでに寄って、たまり場にしてもらおうということです。半年くらい続きましたが、建て替えて廃止となり、今は東小金井の北口に自分の作ったものを売れるスペースにしました。その方が商店街の活性化になるのではないかということです。そのスペースは誰でも自由に使えます。

島田委員長 公民館をみんなのものに、というと狭い公民館のイメージになるけれど、地域の人々が交流したり学びあって親睦を深めるためにはどうしたらいいかと広くテーマを設定すれば商工会の活動も入ります。

熊谷委員 京王通りの空き店舗が残念ながらアパートになったのです。塀を作って、それはシャッターと同じですね。町の活性化にはならない。聞いたところによると、下を店舗にすると銀行がお金を貸してくれないそうです。アパートだと貸すのだそうです。そういう現実がありますのでなんとか皆さんで支えてもらいたい。

島田委員長 農協は地域の中でどのような活動をしているか知りたいと思って、後継者育成とか緑地保全など行っていますかと聞いたら、ここは金融担当窓口なので他に聞いてくださいと言われてしまいました。当然そうい

う役割があっただけいいはずですね。

社会福祉協議会ではこのような取り組みはありますか。

竹内委員

福祉会館ができた昭和43年当時は斬新な施設だったようですが今は使いにくく、先日理事会でも、利用者は高齢者が多いけれど使い勝手が悪いということで市に早く建替計画を立ててほしいと要望することになりました。平成22年度に福祉会館代替施設を12億円で建てようという案がありましたが、見直しの結果学校の耐震改築を優先にすることになり、こちらは後回しになりました。学校も大事ですが、介護予防でこちらを利用する高齢者も多い訳ですから是非計画に入れてほしいと思います。具体化しますと公民館も施設をどういう形で作ろうかと提案をするような場面が出てくると思います。玄関を入れてきてそこでごく自然に話ができるようなコーナーも出来るでしょう。今、公民館にも社会福祉協議会にも、入りにくいしお客さんとの対応がしにくい感じです。最近の施設は廊下もオフィスも一体になっていて、入っていくと知らず知らずのうちにオフィスに入っていくようになっている。高齢者にも若い人にもスムーズに利用できる施設を作ろうという議論もこれから出来ると思います。社会福祉協議会としては市長に既に要望を提出しました。公運審でもそういう議論をしていくといいと思います。

島田委員長

次回までに公民館の基本方針作りに関しましては、「公民館（地域の親睦・交流・文化活動を広く含む）をみんなのものにするには」という題で一言ずつ書き寄ってみるということをお願いしたいと思います。

引き続き公民館研究大会の準備活動で力を発揮していただきたいということをお願いします。

島田委員長

第9回審議会を終了いたします。